

がん感染症疾病対策課感染症対策係
 担当 西田、阿部
 直通：092-643-3597
 内線：3386

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和4年第35週（令和4年8月29日～令和4年9月4日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・今週は、腸管出血性大腸菌感染症の報告が16件ありました。第35週までの累積報告数は143件で、昨年の同時期（124件・速報値）に比べ多い状況です。腸管出血性大腸菌は、生肉や加熱不十分な肉を食べること等で感染します。肉などを調理する際は十分に加熱（75℃以上で1分以上）しましょう。また、汚染された手を介して人から人へも感染することや、感染しても発症しないことがあり、知らずに家庭内で感染を広げることがあります。日頃から、石けんや流水で手洗いを行い、感染予防に努めてください。詳しくは、別紙をご確認ください。
- ・福岡県感染症情報ホームページ(http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/)では、感染症発生情報、病原体検出情報などがご覧になれます。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	17	498	199	9,453
腸管出血性大腸菌感染症	16	143	123	2,014
レジオネラ症	2	43	38	1,296
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	64	23	1,097
急性脳炎	2	16	4	224
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	20	8	483
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	7	2	116
侵襲性肺炎球菌感染症	1	42	10	783
水痘（入院例）	1	3	0	204
梅毒	3	332	196	7,824
風しん	1	2	0	6

※新型コロナウイルス感染症の最新の発生状況等は別紙をご覧ください。

■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル

：注意報レベル

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
インフルエンザ	30	0.15	0.97	137	0.03
RSウイルス感染症	231	1.93	1.13	3,873	1.24
咽頭結膜熱	18	0.15	1.13	230	0.07
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	104	0.87	1.42	660	0.21
感染性胃腸炎	379	3.16	1.00	6,013	1.92
水痘	9	0.08	1.80	149	0.05
手足口病	157	1.31	1.09	10,397	3.32
伝染性紅斑	10	0.08	-	16	0.01
突発性発しん	57	0.48	1.21	734	0.23
ヘルパンギーナ	95	0.79	1.76	2,465	0.79
流行性耳下腺炎	4	0.03	2.00	94	0.03
急性出血性結膜炎	0	0.00	-	1	0.00
流行性角結膜炎	3	0.12	3.00	143	0.21
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	11	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	-	10	0.02
マイコプラズマ肺炎	0	0.00	-	12	0.03
クラミジア肺炎	0	0.00	-	-	-
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	-	3	0.01

腸管出血性大腸菌感染症について

- 大腸菌は、家畜や人の腸内にも存在します。ほとんどのものは無害ですが、このうちいくつかのものは、人に下痢などの消化器症状や合併症を起こすことがあり、病原大腸菌と呼ばれています。病原大腸菌の中には、毒素（ベロトキシン：VT）を産生する腸管出血性大腸菌と呼ばれるものがあり、この菌に感染すると出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす場合があります。
- 腸管出血性大腸菌は、菌の成分によりいくつかの種類があります。代表的なものは「O（オー）157」で、その他に「O26」や「O111」などが知られています。
- 少量の菌数（10から100個程度）でも感染が成立し、人から人へ、または人から食材、食品への経路で感染が拡大しやすいとされています。
- 保育施設や高齢者施設における集団感染が報告されています。
- また、動物と接触することにより感染した事例も報告されています。

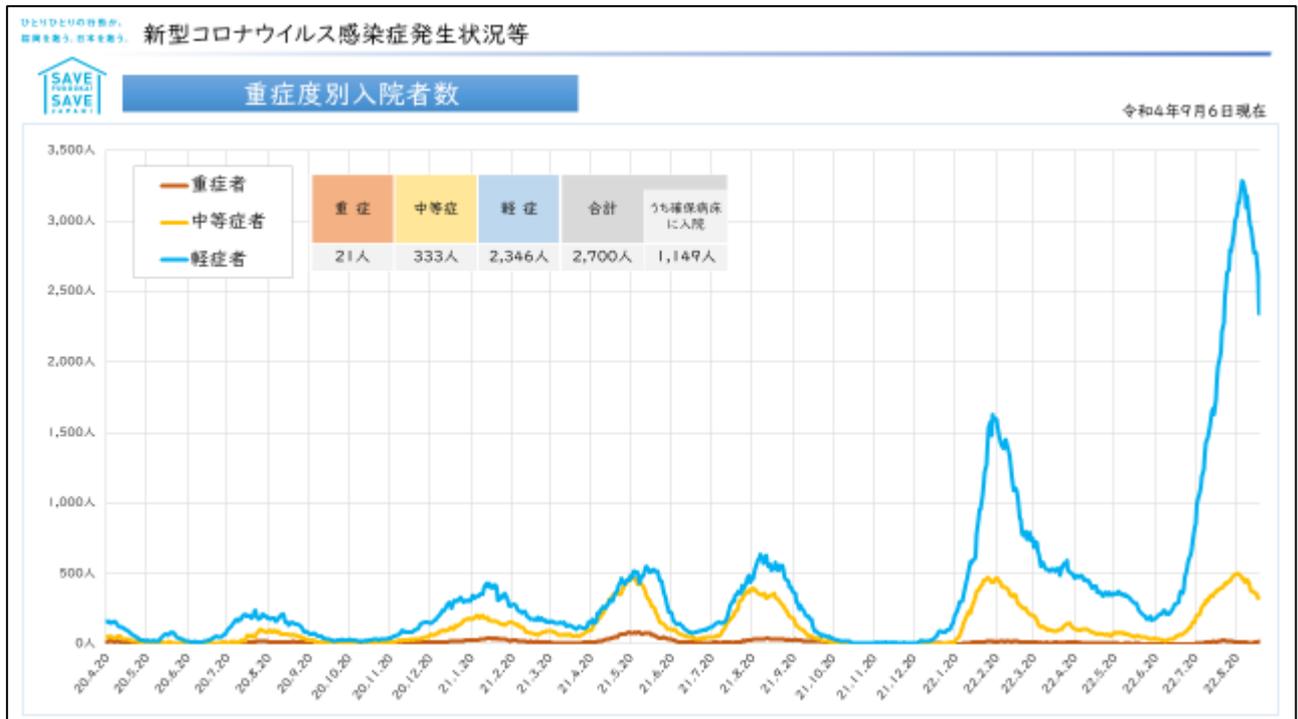
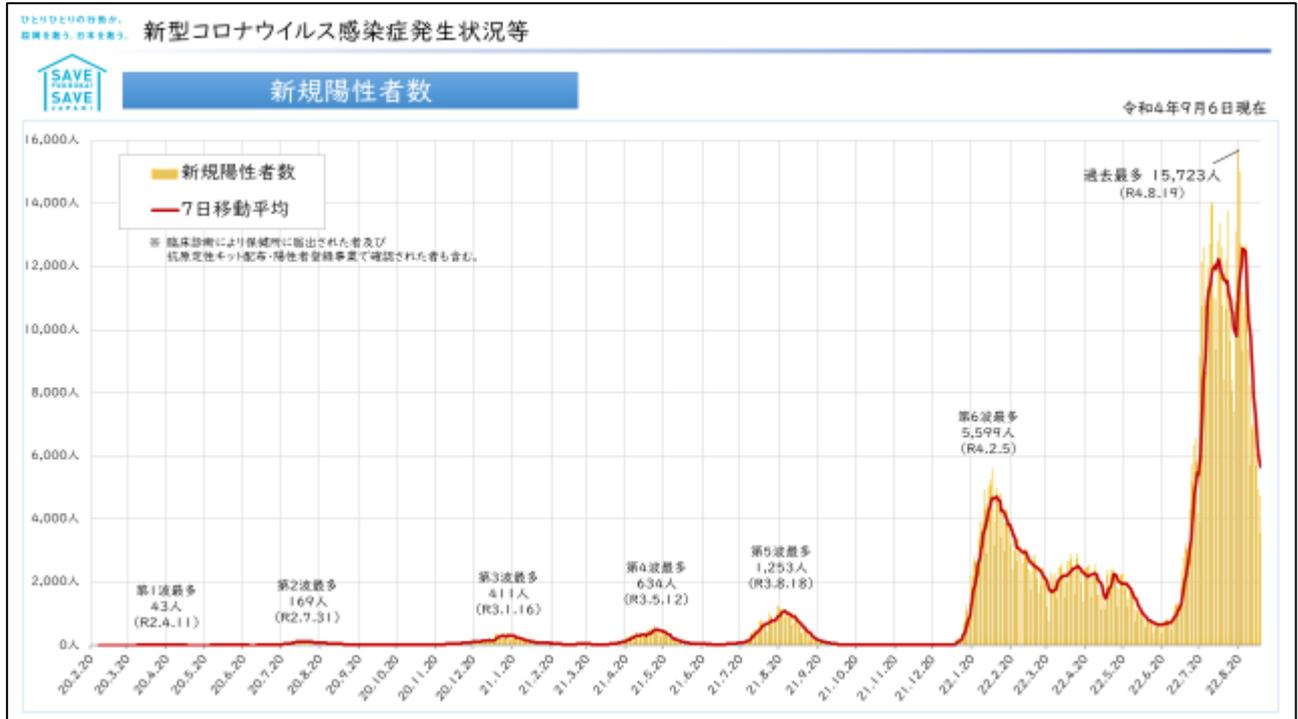
《症状》

- 感染して4～8日間程度の症状のない期間の後に腹痛や水様性の下痢を起こし、その後、血液の混じった下痢となることがあります。また、嘔吐や38℃台の高熱を伴うこともあります。
- さらに毒素の作用により、溶血性貧血や急性腎不全を来し、溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こすことがあります。特に、小児や老人では、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症（けいれんや意識障害など）を引き起こしやすいので注意が必要です。

《予防のポイント》

- 腸管出血性大腸菌感染症が多発する夏季は、食中毒の予防をより徹底することが重要です。
- 感染症予防の基本は手洗いです。調理時、食事前、トイレやおむつの取り替えの後は、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- 75℃1分以上の加熱で菌は死滅するとされていますので、調理にあたっては、中心部まで十分に加熱（75℃1分以上）し、調理した食品は速やかに食べましょう。
- 調理済の食品に菌がつかないように、調理器具は十分によく洗いましょう。
- 焼肉などでは、生肉専用の箸やトングを使い、食べる箸と使い分けましょう。
- 子どもや高齢者など抵抗力が弱い方は、重症化することがありますので、生肉や加熱不十分な肉料理を食べないようにしましょう。
- 患者のいる家庭では、便に汚染された下着等の取扱いに注意しましょう。

○県内における新型コロナウイルス感染症の発生状況等について



・福岡県では、下記のホームページにて随時、発生状況や感染予防策などの情報提供を行っています。

◇新型コロナウイルス感染症ポータルページ

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/covid-19-portal.html>